

第72回（令和7年度）矢野賞受賞者の概要

おかざき ともあき
岡崎 伴明 (43歳)
岡山市東区西幸西



おかもと かずまさ
岡本 和正 (42歳)
倉敷市玉島道越



よだ かずや
奥田 十也 (38歳)
高梁市備中町平川



経営内容：米麦・野菜 (水稻 24.3ha、小麦 10ha、レタス 0.6ha)

大学卒業と同時に親元で農業経営を学び、平成22年に経営分離し、米麦と野菜の複合農家として経営を開始した。

地域計画の中心的経営体として農地集積を積極的に進め、自力施工による合筆で作業性の向上を図りつつ、水位センサーヤドローンなどのスマート農業技術を活用した省力・効率化を実践している。JA岡山西大寺レタス部会では部会長、岡山地方大型米麦研究会では副会長を務め、产地を牽引する役割を果たしている。

青年農業者クラブ活動では、西大寺新農業経営者クラブの会長を務め、地域農業の振興に尽力している。

地域では、小中学生へのスポーツ指導や食農教育、子ども食堂への農産品の無償提供など、青少年の健全育成や地域の発展に貢献している。

経営内容：果樹 (もも 1.7ha)

県外の民間企業で勤務しながら、定期的に現地を訪問し、新規就農研修制度を活用して、平成31年にもも農家として新規就農した。省力化と効率化を重視したスマート農業技術が活用しやすい園地整備とロボット草刈機の導入などを積極的に行い、大規模もも専作経営を実現している。販売面では、検疫条件の厳しい台湾への輸出に対応した選果施設を個人で整備し、令和7年から輸出に取り組んでいる。

青年農業者クラブ活動では、倉敷市新農業経営者クラブの会長や県協議会の理事を務め、若手生産者の中心的人物となっている。

地域では、新規参入の経験を活かし、部会の担い手役員や就農アドバイザーとして新規就農者11名の確保・育成に貢献するなど、地域農業の維持・発展に重要な役割を果たしている。

経営内容：野菜 (トマト 32a)

県内の民間企業での勤務を経て、新規就農研修制度を活用し、トマト農家として平成29年に新規就農した。就農当時から夏季の高温対策に取り組み、軒高連棟ハウスや遮光技術を導入し、近年の猛暑の中でも高品質安定生産を実現している。

青年農業者クラブ活動では、高梁地方協議会の会長など要職を長年務め、プロジェクト活動を主導するなどクラブの中心的役割を担っている。

地域では、自身の移住や就農経験を活かし、移住就農受入体制の整備を図り、子育て世代6組の就農を支援した。それら地域の活動は国からも高く評価され、令和6年度過疎地域持続的発展優良事例表彰を受賞するなど、農業だけでなく地域の活性化にも大きく貢献している。